

Q.

「青森開港」はいつですか？

A.

「開港」を国語辞典・日本史の辞典どちらにも通じる意味、すなわち「外国と通商関係を持つ」という意味でとらえると、青森港が特別輸出港に指定された明治39年（1906）4月1日になります。

ただし、一般的には「青森という町がいつできたか」を「青森開港」と表現することが多いので、以下はこれについて説明します。これまでに寛永元年（1624）、寛永2年、寛永3年の3説が提示されています。そして、これらのうち寛永2年については、史料解釈を異にするふたつの説があります。なお、寛永元年説は現在否定されています。

さて、寛永2年説ですが、これは同年5月15日に幕府の年寄衆が第2代藩主津軽信枚に津軽から江戸への廻船就航を許可したという文書が典拠になります。そして、この文書の解釈をめぐるふたつの説が示されています。ひとつはこれを「契機に青森湊の建設」が始まったとするもので（2年①説）、もうひとつはこの年に「青森開港」になったとします（2年②説）。

つぎに寛永3年説ですが、同年4月6日付で信枚は森山弥七郎に青森への移住者を募るよう命じます。この文書が「青森派之事」とあるので、これをもって「青森開港」とします。

通説的理解では、「2年①説」を受けて寛永3年説の文書が発給されたと考えられています。「2年②説」は目下少数派といいいいでしょう。

ちなみに、寛永2～3年の間に青森の町づくりが完成（青森開港）したとはいえません。むしろこの時期は町づくりが「緒についた」と考えるべきで、「近世青森町」の姿が顔になるのは、40年以上も先のことになります。

なお、当時の史料には「開港」「築港」といった港湾施設の建設に絡む文言は見られません。



（ワ・ラッセ西の広場にあるヒストリーサークルより「青森開港の許可」）

〈参考文献〉

『新青森市史』資料編2 古代・中世（青森市 2005年）

『新青森市史』資料編3 近世（1）（青森市 2002年）

『新青森市史』通史編第2巻近世（青森市 2012年）

〈関連メールマガジン〉

「あおもり歴史トリビア」第2号（2012年4月13日配信）